別紙様式

令和6年度　学校評価報告書

小樽市立桜小学校
校長　森國　聡

【自己評価】
数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価
A：100％以上
B：80％以上100％未満
C：80％未満

【学校関係者評価】
学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
◎：適切である
〇：おおむね適切である
△：適切でない

1　本年度の重点目標

授業を通して「ひとりだち」～自律の力を育む～

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業づくり　80％	A	研究主題「ともに学び、考える子どもの育成」の下、誰一人取り残さない授業を目指し、端末の活用を柱として計画的に研修を行ってきた。教職員評価による達成率95％	◎
		特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインを意識した環境と授業づくり　85％	B	構造化・焦点化・視覚化を意識した授業を目指していたが、普通学級における特別支援教育の視点と校内研究との関連付けが明確ではなかった。教職員評価による達成率81％	◎
		国際理解教育の充実	「外国語が好きだ」児童回答　85％	A	講師を招き、外国語指導をはじめとする言語活動の研修を深め、日常実践に活かすことができた。児童アンケートによる達成率89％	◎
		理数教育の充実	「算数はよくわかる」児童回答　85％ 「理科はよくわかる」児童回答　90％	B	発達段階に応じ、端末を積極的に活用した算数（担任中心）・理科（専科中心）授業を通し、主体的に学ぶ姿勢を育んできた。児童アンケートによる達成率算数78％理科89％	◎
		情報教育の充実	クロームブック・ICT機器を積極的に活用した授業づうり　90％	A	上記[確かな学力の育成」の自己評価内容の他に、教職員は自主的に端末活用の研修を行った。また発達段階に応じた活用方法等を考える場面が多くあった。教職員評価による達成率90％	〇
		キャリア教育の充実	キャリア教育に関する出前教室や地域の施設見学などで働く人の様子を学ぶ体験的な学習を3年生以上の学級で実施する。	A	児童のキャリア形成を目指し、3年生以上の全ての学級で、積極的に出前授業や施設見学等による体験的な学習を実施した。	◎
改善方策		・次年度は、対話を通し、生き生きと学ぶ子どもの姿を求めていく。そのために、「対話を意図的に位置付けた授業作りとその価値付け」と「学ぶ方法の選択肢を増やす」ことに力を入れ研修を深めていく。また、経営の重点に「子ども理解と情報共有を重視した特別支援教育の推進」を位置付け、誰一人取り残さないおだやかであたたかい学校づくりに努めていく。				
学校関係者評価委員による意見		多様性の時代と言われるようになり、「誰一人取り残さない」ために、個に応じた学習やICTを使った学習が必須とってきている。不登校になっている児童・生徒を見ていると、勉強がわからないから学校がつまらない、という子どもが少なくない。教育の大改革の中で、学校や担任にとっては本当に大変な時期となっているが、子どもたちが生き生きと学び、誰一人取り残さない授業づくりを推進していってほしいと願っている。				
2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分には良いところがある」児童回答85％	A	「寄り添う」「フォロー」を大切にし、全教育活動を通して、子どもの自尊感情を高めることを全教職員で共通理解を図った。児童アンケートによる達成率85％	◎
		ふるさと教育の充実	ふるさと教育に関する外部講師活用学年：2年生以上の全学級で実施	A	これまでの経験を引き継いだり、新たな講師を係や教頭が紹介するなどして、2年生以上全ての学級で実施した。	◎
		読書活動の推進	「朝読書にしっかり取り組んでいる」児童回答　85％	A	全てのクラスにおいて、週2回の朝読書に取り組んだ。また司書による図書の整備により、本とふれあう環境が整い、本を進んで読む児童が増えてきている。児童アンケートによる達成率90％	◎
		体験活動の推進	博物館や自然の村等、地域の施設と連携した活動：全学級で実施	A	生活科や社会科、総合的な学習の時間、行事等の中で、積極的に地域の施設と連携した体験的な学習を全学級で実施した。	〇
		コミュニケーション能力の育成	「はっきりあいさつや返事をする」児童回答　90％	A	あらゆる場面で挨拶指導や、児童会を中心とした取組をしてきたが、進んで挨拶することに関しては課題が残った。児童アンケートによる達成率90％	〇
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「友達の良い所をみつける」児童回答90％	B	全ての教育活動を通して道徳教育の充実を目指し、規律の徹底や寄り添い、フォローを大切にした指導を行ってきた。児童アンケートによる達成率は84％	◎
改善方策		今年度、不登校児童を新たに出してしまった原因の一つが、寄り添う指導、指導後のフォローができていなかったことと捉えている。この点は、引き続き、指導の重点として全教職員で共通理解を図っていく。また、挨拶や返事等の基本的な生活習慣の獲得については、結果に一喜一憂するのではなく、地域との連携した継続的な指導を重視する。				
学校関係者評価委員による意見		・HSC（敏感で繊細な子ども）など、ちょっとしたことで教室に入れない、学校に行けない児童が増えてきている。相手を思いやる心の育成を大切にしながらも、忍耐強さやしつけなど、学校だけではなく、家庭・地域の力も借りながら、子どもたちがこれからの時代を生きていけるような、逞しさを身に付けさせることも必要だと感じる。 ・本を進んで読む児童が増えていることは喜ばしい。子どもたちが人として心と心のふれあう場をたくさん作れると良い。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「新体力テストを活用した授業改善」教師回答　90％	B	中学体育教師による高学年での指導や、係の適切な対応等を通し、授業改善に努めた。テストに慣れる場、記録更新できる場の設定等、更なる改善が必要である。教職員評価による達成率81％	◎
		食育の推進	「朝食を毎日食べている」児童アンケート　95％	B	学級指導や懇談会、各種お便りで啓発に努めた。児童回答94％とほぼ目標に到達しているが、100％に少しでも近づくよう指導を継続する。	◎
		健康教育の充実	薬物乱用防止教室、エピペン・AED研修各年1回実施	B	エピペン、AEDの使用の仕方の研修は、職員会議・研修内で理論研修として行った。実際に実物などを使用した研修までは実施できなかった。	◎
改善方策		休み時間に、安全を確保した上で、グランドや中庭での外遊びや体育館の遊びを奨励し、体を動かすことができる環境を保障していく。また、体育の授業においては、新体力テストを活用した授業改善、運動量を確保した授業改善を継続し、児童の体力・運動能力向上への取組を進めていく。体育備品の入れ替え、補充も進めていきたい。				
学校関係者評価委員による意見		・友達や先生と遊んだり、太陽の光を浴びながらグラウンドで思いっきり体を動かしたり、健やかな体の育成に限らず、遊びを通して学ぶことはたくさんあると思う。桜小は遊んでいる子どもは多いと思うが、もっともっとたくさんの子どもに遊んでほしいと思う。 ・子どもの命2関わることの研修を充実させることが大切である。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	「家庭での学習習慣が身についている」保護者アンケートで肯定的評価85％	B	宿題、自学、週末課題等を通し、家庭学習の習慣付けに取り組んできたが、主体的・継続的な態度については、個人差がある。保護者アンケートによる達成率80％	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	桜小中コミュニティ・スクールの活動方針の理解と活動の成果の実感 教師回答　80％	C	今年度コミュニティ・スクールを立ち上げることができた。職員への取組内容等の周知を図ってきたが、成果を実感するまでには至らなかった。教職員評価による達成率62％	◎
改善方策		学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てていくことの重要性を、教職員をはじめ、学校に関わる多くの人たちにとって、実感のともなった理解となるよう、できることから丁寧に取組を進めていく。そのために、安全を十分に確保した上で、今まで以上に学校を地域に開き、児童が多くの大人と触れ合いながら学ぶ機会をつくっていきたい。				
学校関係者評価委員による意見		・教育は、学校だけでは本当に難しくなってきている。PTAやCSなど、地域の力を借り連携を深めていくことが必要だと感じる。最初は、時間も手間もかかるかもしれないが、何年か後の姿を見通しながら、CSを進めていくことが大切だと思う。 ・CSが年4回の実施では、成果をあげていくことは難しかもしれないが、しっかり、ゆっくりと進んでいくしかないと思う。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫教育の推進による、効果的な教育活動の展開 教師回答80％	A	教職員評価の達成率が81％と高い評価だった。継続した取組の成果だと考える。しかし、まだ全員が参加する体制は整っていないため、更なる改善が必要である。	○
		教育環境の整備・充実	教室・廊下・空き教室等の環境整備 教師回答90％	B	「場を清める」ことを大切に、教師が率先して環境整備を行ってきたが、不要物を廃棄するなどして、更なる環境整備に努めていかなければならない。教職員評価による達成率86％	◎
		教職員の資質・能力の向上	オンデマ等を活用した研修会への参加：年間5回以上	B	全教職員が、複数回の校外研修会に参加したが、5回以上までには至らなかった。しかし、前述した通り、自主的に研修を行うなど、積極的に資質・能力の向上を図る姿が見られた。	◎
		学校運営の改善	「働き方改革が進んだ」教師回答80％	B	スクラップ＆ビルドを目指したが、新たにビルドすることが多くあり、その取組の中でのスクラップだったため、働き方改革が進んだように感じられなかった。教職員評価の達成率67％	◎
		学校安全教育の充実	情報モラル教室の実施：3～6年生全学級実施	A	警察による防犯教室の中で、インターネットに関わる危険な事例をお話していただいたり、GIGA講師に、モラル教室を実施していただいた。	◎
改善方策		本校の教職員は、児童の安全面や、学ぶ環境等の質の向上のために、真剣に考え、実践できる集団である。そのために自らの力量を高めようする意欲も高い。その力を大いに発揮できるように、「子どもと向き合う時間を確保した働き方改革の推進」を経営の重点に位置付け、ゆとりのある労働環境をつくっていきたい。そのために、今後の教育を背負っていく若手を中心とした働き方改革コアチームの結成を考えていく。				
学校関係者評価委員による意見		・先生のなり手が少なくなり、当たり前のように欠員が出る状況になっていしまい、学校現場は本当に大変な状況にあると感じている。先生方が元気で子どもたちの前に立つことが何よりも大切なことだと思っている。そのための努力を少しずつでもいいので、学校の職員のみんなで進めていただきたいと願っている。 ・教育環境の整備・充実を先生方が行うのは大変なことである。何か策を考えてほしい。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			高島プール、総合博物館をそれぞれ年1回以上利活用	A	昨年度同様、高島プールは全学年利用。総合博物館は、3年生が利用した。	◎
改善方策		バス代の高騰による保護者負担やスクールバスの使用が多く見込めないなどの課題はあるが、地域から学ぶ・地域と繋がることを大切に、今まで以上に積極的に社会教育施設を活用していく。				
学校関係者評価委員による意見		・物価の高騰が、学校現場にも大きな影響を与えており、大変だと思う。しかし、子どもたちのために知恵を出し合い、教育の水準を下げることなく、豊かな学ぶ場をつくりあげていくことが重要である。				